

8503 ミシシッピー. 多くの人々には・・・

ミシシッピー. 多くの人々には「大河」のイメージぐらいしか浮かんでこないこの名前が, 僕にとってはたまらないロマンと郷愁にも似た気持を起こさせる不思議な固有名詞である. しかも黒人の生活状況が他の南部諸州よりも劣悪であり, アラバマ州とともに人種偏見がもっとも強い州というイメージと重なって, ぼくの内には特別なミシシッピー観ができるがっていた.

南部 泰文『ブルース心の旅』

〔許容訳例〕

Mississippi: most people simply associate the name with the image of a big river. For some strange reason, however, this proper noun inspires me with an extremely romantic, almost nostalgic feeling. On top of this, the living conditions of the Negroes in Mississippi are worse than those in any other state of the South, and the state ranks with Alabama in intensity of racial prejudice. All these images had combined to give me a special view of Mississippi.

〔翻訳例〕

Mississippi: to most people the name suggests little more than the image of a big river, yet for me this proper noun has a strange power to evoke an almost unbearable mood of romance and something akin to nostalgia. Moreover, the image of a state where living conditions for blacks are more wretched than in other Southern states, a state equalled only by Alabama in the intensity of its racial prejudice, had combined with this to form a very special view of Mississippi in my mind.

■ ミシシッピー. 多くの人々には「大河」のイメージぐらいしか浮かんでこないこの名前が, 僕にとってはたまらないロマンと郷愁にも似た気持を起こさせる不思議な固有名詞である. (8503)

★ 「ミシシッピー」は Mississippi で, 州と河の名前です. 河の名前なら定冠詞(the)を付けなければなりませんが, この場合, 最初から the を付けると河の名前と限定されてしまうので無冠詞がいいです. なお, 日本文では終止符が打ってありますが, 英語ではコロンあるいはダッシュで続けた方がいいです.

★ 「多くの人々には」は to[for] most people です.

★ 「「大河」のイメージ」は an [the] image of a big river です. of 以下で image が限定されているので the を付けるわけですが, 「イメージ」はいくつもあるので不定冠詞も可能です. その場合 an image of…は「こういう種類のイメージ」ということになります. この不定冠詞は, たとえば, When you remember your father, what kind of a man do you think of?----I think of a man in middle age, rather fat, and wearing a big hat. のような場合の使い方と同じ

です。これに対して、with the image of…というと、その場すでに共通の体験・認識として決まっているイメージ、という感じになります。

★「～ぐらいしか…ない」に対応する英語の定型表現は little more than…です。簡単に、simply でも表すことが出来ます、

★「浮かんで…」は、主語によっていろいろありますが、the name を主語にするなら suggest を使うことができます。most people を主語にすると associate を使うことができ、非常に英語らしい表現になると思います。この associate は、たとえば、I associate the name with~とか For me the word has associations of [is associated with]~のように使います。余談ですが、今は英語を習得言語として学ぶ人のために、いろいろな辞典が出ていますが、昔は平易な英々辞典はアメリカの High School Dictionary くらいで、普段から COD; POD あるいは Wyld の The Universal English Dictionary とかを使うしかありませんでした。ニュアンスをつかむためにはよく Wyld の辞書を引きました。単語がもたらすイメージを知るには POD を引きましたが、これは味のある楽しい辞典でした。たとえば、多くの辞典は「6月」を引くと「一年の六番目の月」のような無味乾燥な語義が記載されているのですが、POD は June を引くと associated with roses and shower (六月というとバラとにわか雨が思い浮かぶ) と出ていました。

●「連体修飾節+特定体言」(「変形 {単位情報}」→ {単位情報})

「～ぐらいしか浮かんでこないこの名前」は「連体修飾節+特定体言」ですが、これは {単位情報} の一部の配列を変えた「変形 {単位情報}」というべき部類のもので、たとえば、「朝六時に起きた僕は」は「僕は朝六時に起きた」を変形させたものと同種です。その場合、英語では「特定名詞・人称代名詞+コンマ関係詞節」(I, who got up at six this morning...)か「分詞構文+特定名詞・人称代名詞」(Getting up at six this morning, I...)か、あるいは元の {単位情報} (I got up at six this morning, and[but]...)に戻して後の {単位情報} との関係を見極めて連結辞を加える、という三つの方法で対応します。ここでは、最初に「この名前」(Mississippi)が出てくるので、「～しか浮かんでこないこの名前」は「多くの人々はこの名前から～しか思い浮かべない [が…]」(Most people simply associate...)とか「多くの人々に、この名前は～を思い浮かべさせる [が…／させて…]」(The name suggest...but[and]...)などと正常な {単位情報} に変えて処理するのが適切です。なお、「この名前」は、すでに了解済みなので this name でなく the name です。

★「僕にとっては」は for[to] me です。

★「たまらないロマン」の「たまらない」は、現在の「ヤバイ」と同様に、相反する二つの意味合いで使われます。つまり、否定的な場合(暑くてたまらない)と肯定的な場合(風呂上がりの一杯はたまらない)です。ここは肯定的な場合です。「たまらないロマン」は「じつとしてはいられないほどの夢と興奮を感じさせるもの」という意味ですから、英語では almost unbearable …でしょう。後に続く言葉によっては extremely も使えるかもしれません。なお、「ロマン」はフランス語で、英語なら「ロマンス」(romance)です。

★ 「郷愁」は *nostalgia* です。形容詞として処理するなら *nostalgic* です。

★ 「(郷愁)にも似た気持」は *something akin to (nostalgia)* がぴったりです。*nostalgia* は *feeling* の一種ですから *a feeling akin to nostalgia* とは言えません。ここでは *mood* を使うといいでしょう。ついでながら, *akin to* は夏目漱石の『三四郎』の中に出でてきます。Pity is akin to Love.をどう訳すかで, 与次郎が「可愛そうだたあ惚れたってことよ」と訳して, 広田先生からちがうちがうと言われたように記憶しています。

● [と] (並置) (ロマン [と] 郷愁にも似た (気持))

「たまらないロマン [と] 郷愁にも似た (気持)」の [と] は「並置」ですから and でつなぎます。

★ 「・・・気持を起こさせる」は *evoke[summon up]…mood of…* です。*evoke* はよく *mood* と組み合わされますので, ここでは *evoke an almost unbearable mood of romance and…* とします。なお, 「起こさせる」に *inspire* を使うなら「気持」に *feeling* を使うことができます。この動詞は, たとえば, *Reading that book has inspired me with a desire to see Japan.* のような構造で使いますから *inspire me with a/an…feeling* です。この場合の不定冠詞は「こういう種類の(一回だけの)～」という意味の使い方です。

★ 「不思議な固有名詞」の「不思議な」は *mysterious (proper noun)* でもいいですが, ここではちょっと物足りない気がします。*strange* の方がいいと思います。

● 「連体修飾節+特定体言」(「変形 {単位情報}」→ {単位情報})

「僕にとってはたまらないロマンと郷愁にも似た気持を起こさせる不思議な固有名詞である」の部分も「連体修飾節(僕にとってはたまらないロマンと郷愁にも似た気持を起こさせる) + 不定代名詞的体言(不思議な固有名詞)」です。この文も, 連体修飾節の処理の三つの手法の三つ目の「変形 {単位情報}」→ {単位情報} を使って, 「標準的な {単位情報} + 連結辞」に直して処理するのが適切と思われます。ただ, 注意しなければならないのは, 情報の配列です。「不思議な」と形容詞は, 前に「僕にとってはたまらないロマンと郷愁にも似た気持を起こさせる(から)」という理由があるので, 「不思議な(固有名詞)」と言えるのですから, 「この不思議な固有名詞(this mysterious[*strange*] proper noun)を主語にして「僕にとってはたまらないロマンと郷愁にも似た気持を起こさせる」とすることが出来ません。したがって, *this proper noun* より後に「不思議な・・・」(*strange*)が出てくるようにする必要があります。たとえば, *this proper noun has a strange power to evoke [summon up] an almost unbearable mood of romance and something akin to nostalgia* のように。ただ, 結果予示法(*prolepsis*)的に *for some strange [mysterious] reason* として先頭に出すこともあります。

● 文技巧

「たまらないロマンと郷愁にも似た気持を起こさせる」を日本語に近い形で処理すると上で示した通りですが, 「・・・にも似た」を「ような・的な」と解釈すると, こここの「ロマン・郷愁」は「あこがれと懐かしさ」ですから, 形容詞として処理して *romantic; nostalgic*

で処理することが出来ます。その場合は「たまらない」と「似た」を副詞に変えて、「たまらなく」(extremely), 「似た」(almost)とすることになります。また、形容詞で処理するとなれば、「ロマンと郷愁」は一体となって使われることが多いので、二つの性質(あこがれ・懐かしさ)が個別に独立していると考えるのではなく、とは、[と]に and を付与しないで、コンマだけで an extremely romantic, almost nostalgic feeling と結んだ方が自然です。このような処理もここでは可能です。

■しかも黒人の生活状況が他の南部諸州よりも劣悪であり、アラバマ州とともに人種偏見がもっとも強い州というイメージと重なって、ぼくの内には特別なミシシッピー観ができあがっていた。(8503)

★「しかも」は moreover とか on top of this とかを使うことが出来ます。

★「(ミシシッピー州の) 黒人の生活状況」は the living conditions of the black [blacks; black people]ですが、the は of…によって限定されているために使うわけです。ただし、たとえば、living conditions for blacks なら無冠詞です。for…の場合は離して前に置いてもいいわけで、of…に比べて living conditions とそれほど密接につながらない感じになるからです。なお「黒人」に the Negro を使っても間違いではありませんが、現在では習慣的にも Negro という言葉は使いません。the black, the blacks, blacks, black people などを使っています。

★「他の南部諸州」は other states in the South とか other Southern states です。

★「他の南部諸州よりも劣悪であり…」は worse[more wretched] than those in other states…です。those in any other state…でもいいですが、any other とすると「他にない」ということになりますから、「アラバマ州と同じ」が消えてしまいます。「アラバマ州と同じ」という日本語に近づけるのであれば in other states です。

★「(この州は) アラバマ州とともに…が…」は二重主語構文です。つまり、この文は「彼は身体が弱い」→He is weak in health.と同じで、したがって、ここは The state is equaled by Alabama in…(この州は…の点でアラバマ州と同じ)と処理することが可能です。この in は「関係点を表す in」と言われるもので、二重主語の日本文の処理によく使われる構文で使われます。ですから、(this state) ranks with Alabama in …という表現も可能です。

●「連体修飾節+不定代名詞的体言」(他の南部諸州よりも劣悪である州)

「黒人の生活状況が他の南部諸州よりも劣悪であり…」は後の「州」に懸かっていて、「連体修飾節(黒人の生活状況が他の南部諸州よりも劣悪である)+不定代名詞敵体言(州)」の関係にあります。したがって、英語では「名詞(a state)+関係詞節(where living conditions for blacks are more wretched than in other Southern states)」と処理することが出来ます。

★「人種偏見」は racial prejudice です。

●「連体修飾節+不定代名詞的体言」(人種偏見がもっとも強い州)

「(アラバマ州とともに) 人種偏見がもっとも強い州」も「連体修飾節(人種偏見がもっとも強い)+不定代名詞的体言(州)」ですから、「名詞(a state)+関係詞節(which is most

intense in racial prejudice)」です。ただし、ここでは「アラバマ州とともに」を組み込まなければならぬので、intense を名詞に変えて「名詞(a state) + 関係詞節((which is) equaled only by Alabama in the intensity of its racial prejudice)」とすることになります。なお、rank を使うと rank with Alabama in intensity of racial prejudice です。

● 「連体修飾節」が二つ重なる場合の処理（・・・であり、・・・強い州）

「・・・というイメージと重なって」のところは、要するに、「A（ミシシッピーという名前）は、僕にとって不思議な固有名詞であるが、B（黒人の生活状況が他の南部諸州よりも劣悪）であり、C（アラバマ州とともに人種偏見がもっとも強い）州というイメージと重なって、・・・」で、二つの連体修飾節 B と C は一つの名詞 A (a state) に懸かっているので a state where…, and which is…なのですが、これでは間延びがして「・・・のイメージと重なって・・・」に合いません。したがって、the image of a state where…, a state (which is) equalled…と詰めて had combined with this to form…と続けます。この this は前の文の「気持」を受けています。なお、ここは二重の連体修飾節にこだわらずに All these images had combined to give me…と書くことも出来ます。

★ 「ぼくの内には」は「僕の心の中には」ですから in my mind でしょう。

★ 「特別なミシシッピー観」は a (very) special view of Mississippi です。「特別な」には「自分だけの」という意味が含まれていると思いますが unique は使わない方がいいでしょう。この言葉は、「他人とは違って自分だけの」という意味ですが、「とうてい他の人の及ばない」というニュアンスがも入ってしまって、自分で自分を褒めるような感じになってしまします。

★ 「・・・観できあがっていた」は form…view あるいは give me…view でしょう。